

2010年度（平成22年度）
広島経済大学 免許状更新講習シラバス

■教育の最新事情（必修領域）

講習の名称	教職についての省察 「専門職たる教員の役割」
実施日	平成22年8月19日（木） 9:00~10:30
担当教員	志々田 まなみ
講習の狙い	経験の省察を通じて学ぶ学習論を理解することで、日々の教育経験のなかから自らに必要な教員としての専門的力量について考える力を養う。
講習方法	ワークショップ形式
到達目標	・「省察」に関する学習論についての知識を理解する。 ・自らの教員経験を省察するワークショップを通じ、自らの専門的知識・力量について省察をおこない、今後の課題を発見する。
講習内容	今日、脚光を浴びている「省察」（リフレクション）の実践的学習論、なかでも主たる対象を成人とした P.クラントンらの学習論を紹介した後、実際に自らの教育経験に関する省察をワークショップを通じて行う。この経験により、これまで固定化しがちだった子ども観や教育観を見直したり、今後教員に求められるだろう資質・能力と現在の自らの資質・能力とを引き比べたりしながら、専門職としての自らの今後の課題について考える。
教科書・教材・参考書	特になし。講習に必要なレジュメや資料は配付する。
成績審査	成績審査は、試験の成績で判断する。 評価基準は、60点以上を合格とする。
履修認定の方法	科目毎の履修認定は行わない。必修科目それぞれの成績審査結果を総合審査し、履修認定を行う。
備考	キーワード：省察的実践家、教員の専門的力量

講習の名称	教職についての省察 「学校を巡る状況変化」
実施日	平成22年8月19日（木） 10:45~12:15
担当教員	田中 泉
講習の狙い	近年のグローバル化の進展により、学校現場においても進む国際化の現状についての理解を深める。
講習方法	統計情報、各種報道などを利用して現状を認識した上で、受講者間の情報交換も行うことで学校現場における国際化の現状について理解を深める。
到達目標	海外で学ぶ日本人児童・生徒の問題と、日本で学ぶ外国人児童・生徒の問題の現状を正しく理解できる。
講習内容	ここでは、主に学校教育における国際化の問題について2つの論点を扱う。1つは、海外で学ぶ日本人児童・生徒の問題で、日本人学校や日本語補習校などの在外教育施設について、および帰国児童・生徒の受け入れ体制について、政府の施策・統計情報を交えて論じる。もう1つは、日本で学ぶ外国人児童・生徒の問題で、外国人児童・生徒増加の背景・原因、外国人児童・生徒の受け入れ体制について、政府の施策・統計情報を交えて論じる。また、広島県の状況について、受講者の方々と情報交換を行いたい。
教科書・教材・参考書	特になし。講習に必要なレジュメや資料は配布する。
成績審査	成績審査は、試験の成績や講習中の質疑等を参考に総合的に判断する。 評価基準は、総合点で60点以上を合格とする。
履修認定の方法	科目毎の履修認定は行わない。必修科目それぞれの成績審査結果を総合審査し、履修認定を行う。
備考	キーワード：国際化、在外教育施設、帰国児童・生徒、外国人児童・生徒

講習の名称	子どもの変化についての理解 「子どもの発達に関する課題」
実施日	平成22年8月19日（木） 13:00~14:30
担当教員	神田 義浩、森田 裕司
講習の狙い	子どもの発達に関する心理学、脳科学等の最新の研究成果や知見を紹介し、年々変化してゆく子どもについての理解と現実的な対応策についての理解を深める。
講習方法	ワークショップ形式
到達目標	・経験的に理解している子どもの発達の姿を客観的・科学的に理解できるようになる。 ・学習困難な子どもの原因や対応策を学び、特別支援教育の新たな可能性を理解する。
講習内容	人間の心身の発達について、その脳科学的な基礎を、神経回路網の発達という観点から解説するとともに、発達障害の原因についても概観する。また LD、ADHD、高機能広汎性発達障害などとして知られるようになった発達障害の症状について整理し、そのような子どもに対する現実的な対応策を持ち寄った事例などをもとに検討する。
教科書・教材・参考書	特になし。講習に必要なレジュメや資料は配付する。
成績審査	成績審査は、試験の成績で判断する。 評価基準は、60点以上を合格とする。
履修認定の方法	科目毎の履修認定は行わない。必修科目それぞれの成績審査結果を総合審査し、履修認定を行う。
備考	キーワード：LD、ADHD、高機能広汎性発達障害（自閉症、高機能自閉症、アスペルガー障害）

講習の名称	子どもの変化についての理解 「子どもの適切な指導」
実施日	平成22年8月19日(木) 14:45~16:15
担当教員	森田 裕司、神田 義浩
講習の狙い	今子どもに起きている変化を理解し、対応方法を考える。
講習方法	講義、グループの話し合い、実習など
到達目標	子どもの様々な変化を理解するための視点をもつこと。 見立てに応じた具体的な対応方法を考えること。
講習内容	今どきの子どもの特徴を明らかにし、それを「学習以前の土台」という視点から理解する。 子どもの土台の形成のために、クラスや個人指導でどのような対応が有効かを検討する。 話を聴く態度について、ロールプレイ実習をとおして体験的に学ぶ。
教科書・教材・参考書	なし。適宜資料を配布する。
成績審査	講義中の取り組み、試験の成績から総合的に評価する。
履修認定の方法	科目毎の履修認定は行わない。必修科目それぞれの成績審査結果を総合審査し、履修認定を行う。
備考	自分の体験や実感をとおして学ぶことが大切である。

講習の名称	教育政策の動向についての理解 「教育改革の動向」、「学習指導要領改訂等の動向」
実施日	平成22年8月20日(金) 9:00~10:30、13:00~14:30
担当教員	樋口 雅夫
講習の狙い	社会の変化に伴う今後の教育政策の方向性を理解するとともに、改訂学習指導要領の趣旨を踏まえ、子どもの実態に即した学習指導を行う資質の向上を図る。
講習方法	講義形式とする。
到達目標	・学習指導要領の意義及び総則、各教科等の改訂の趣旨を理解することができる。 ・近年の教育改革の動向について、法令の改正や中央教育審議会の審議経過を踏まえて理解し、現実の学習指導のあり方に適用させ考察することができる。
講習内容	教育基本法・学校教育法等の改正に伴い、学習指導要領が改訂された。これは、知識基盤社会・グローバル社会とよばれる現代社会に生きる子どもたちに本当に必要な力は何か、という問題意識より議論された結果のあらわれである。本講習では、国の教育政策の観点から近年の教育改革の動向を明らかにする。なおその際、子どもの実際に即した議論となるよう具体的な授業実践事例等を取り上げ、理解を深める一助としたい。 8月20日 9:00~10:30 「教育改革の動向」 // 13:00~14:30 「学習指導要領改訂等の動向」
教科書・教材・参考書	特になし。講習に必要なレジュメや資料は配付する。
成績審査	成績審査は、試験の成績や講習中の質疑等を参考に総合的に判断する。 評価基準は、総合点で60点以上を合格とする。
履修認定の方法	科目毎の履修認定は行わない。必修科目それぞれの成績審査結果を総合審査し、履修認定を行う。
備考	キーワード：教育基本法、学校教育法、学習指導要領、中央教育審議会、PISA 調査、生きる力、知識基盤社会、グローバル社会、基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得、言語活動の充実、社会参画

講習の名称	学校の内外における連携協力についての理解 「学校組織マネジメント」
実施日	平成22年8月20日(金) 10:45~12:15
担当教員	餅川 正雄
講習の狙い	これからの学校に求められる組織マネジメントの考え方や進め方を理解するとともに、ネットワーク型組織の運営とミドルリーダーの役割に関する基礎力を養う。
講習方法	講義を中心として展開し、一部演習を行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校組織を新しい視点からネットワーク型の組織として認知し、その強みと弱みについて理解を深める。 ・ネットワーク型組織を効率的・効果的に運営するための実効策を具体的に説明できる。 ・学校的意思決定の質を高めるためにミドルリーダーの役割を3つ以上あげることができる。
講習内容	<p>これまで学校はナベブタ型組織とかマトリックス型組織と言われてきた。学校はミドルリーダーは存在するが中間管理職がないのが特徴である。そのような学校での組織マネジメントについては、その考え方や手法については、そのスタンダードが確立されていない状況である。学校のミッションをもとに、校長の指示によって、ミドルリーダーが中・長期的なビジョンを描き、環境の変化に対応した組織開発・職能開発を展開することは、学校がネットワーク型の組織として協働的に動く上で基盤となる課題である。</p> <p>そこで、本講習では、以下に示した三つの内容を講義することで、学校の組織を見直す契機とするとともに、学校が組織として効率的に活動するための要点が何であるかを考察し、ミドルリーダーの役割と迅速で質の高い意思決定のあり方を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業などのピラミッド型組織と学校組織の違いについて概説したうえで、学校がラグビーチームのようなネットワーク型の組織であるという解説を行い、タテとヨコの情報の流れの重要性について考察する。 ・多様な生徒への対応が迅速かつ柔軟にできるネットワーク型組織の運営方法として、スピードとタイミングを重視した意思決定に関する演習を行う。 ・意思決定の意味や目的を問い、意思決定の質を高めるための視点として、ミドルリーダーの役割と情報の共有化について、具体的な内容と方法を2人1組で検討する。
教科書・教材・参考書	<p>教科書：特になし。</p> <p>教材：講習に必要なレジュメや資料は当日配付する。</p>
成績審査	<p>筆記試験の結果により評価する。</p> <p>評価基準は、総合点で60点以上を合格とする。</p>
履修認定の方法	科目毎の履修認定は行わない。必修科目それぞれの成績審査結果を総合審査し、履修認定を行う。
備考	キーワード：ミッション、ミッション・マネジメント、チーム・マネジメント、意思決定、スピードとタイミング、情報の共有化、ナベブタ型組織、ピラミッド型組織、マトリックス組織、ネットワーク型組織、リーダー行動、ミドルリーダー

講習の名称	学校の内外における連携協力についての理解 「学校における危機管理上の課題」
実施日	平成22年8月20日（金） 14：45～16：15
担当教員	餅川 正雄
講習の狙い	新しい時代の学校安全とクライシス・マネジメントに関する基本的課題への理解を深め、危機対応の基本原則について、危機発生前と危機発生後の二つに分けて考察するとともに、行動レベルの教員の役割と危機管理マニュアルの見直しの視点を確認し、危機対応の実践力を修得する。
講習方法	講義を中心として展開し、一部演習を行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の生命・安全を脅かす学校の実践的な危機とは何かを検討することで、クライシス・マネジメントに関する現実的な課題についての理解を深め、危機意識を向上させる。 ・危機の発生を予測した組織的な事前対応と危機発生後の事後対応について考察し、その基本原則と教職員の実践的な役割を説明できる。 ・危機対応実践マニュアルの内容はどのようなものが必要であるのかを実例をもとに検討し、実際に活用できるマニュアルを作成するための見直しのポイントを3つ以上あげることができる。
講習内容	<p>学校の重要課題は、生徒の知育を中心とした健全な心身の成長・発達を促進することである。この課題を達成するためには、学校の安全管理の徹底が大前提である。つまり、生徒の尊い生命と安全を守ることが学校教育の最優先課題である。学校の危機が年々深刻度を増している今日、学校の教職員が学校危機に関する全般的な知識と危機対応の実践力を修得しておくことが、最優先事項であると言える。そこで、本講習においては、以下に示した三つの内容を講義することで、教師の根本的な使命を確認し、命の尊さを実感する確固たる教育理念に徹した学校のクライシス・マネジメントへの積極的な取り組みを促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで全国の学校で起きた実際の事件・事故を検討し、クライシス・マネジメントのあり方と基本原則について解説する。 ・学校における危機管理マニュアルの多くがなぜ眠っているのかを考え、すべての教職員の頭の中にマニュアルができあがっていないと、組織的な行動できないことを理解したうえで、マニュアルをどう見直し、どのような教職員研修を行えばよいのかという視点から卓上演習を行う。 ・危機発生前における学校の具体的な対応原則と、危機発生後の教職員の実践的な対応原則について、講義したものの外に何が考えられるのかを2人1組で検討する。
教科書・教材・参考書	<p>教科書：特になし。</p> <p>教材：講習に必要なレジュメや資料は当日配付する。</p>
成績審査	<p>筆記試験の結果により評価する。</p> <p>評価基準は、総合点で60点以上を合格とする。</p>
履修認定の方法	科目毎の履修認定は行わない。必修科目それぞれの成績審査結果を総合審査し、履修認定を行う。
備考	キーワード：クライシス・マネジメント、危機管理マニュアル、学校安全、校内体制、組織的対応、緊急連絡体制、個人情報流出、学校事故、防災教育、いじめ、不登校、ひきこもり、学級崩壊、校内暴力、不審者侵入、殺傷事件、性的被害、伝染病、集団食中毒、自然災害、情報モラル、心のケア、説明責任